

2 本校の学校教育努力点とその推進計画

名古屋市立浦里小学校

I テーマ 生きてはたらくことばの力の育成

～漢字のよさに気付き、進んで漢字を使う浦里っ子～

II テーマ設定の理由とねらい

本校では令和3年度から、「生きてはたらくことばの力の育成」をテーマに、主に漢字学習に焦点を当てて研究を進めた。生きてはたらくことばの力を身に付けている児童は漢字学習において、以下のような姿を見せる。

普段の生活や学習中に進んで既習の漢字を正しく読み書きすることができる。また、習っていない漢字についても、自分で調べたり、漢字のへんやつくりに着目して前後の文脈から漢字の読み方を推測したり、漢字の意味を考えながら適切に使用したりすることができる。

昨年度は、漢字の意味に着目させる授業内容を工夫したり、漢字に慣れ親しむためのイベントを開催したりした。また、学習の基盤づくりのために、月に2回のなごやっ子漢字検定を行い、個に合った目標をもたせて漢字を学ばせた。

その結果、児童は漢字学習に対して興味・関心を高め、新出漢字に出会ったときに音読みや訓読みを意識した発言をしたり、へんやつくりから意味を推測しながら読みだす姿が見られた。初めて見る漢字に対しても読むことや書くことへの苦手意識が低くなり、意味に着目して漢字を学ぶ姿が多く見られるようになった。

一方、使い方に迷うとき、漢字で書けなかったり、間違った漢字を書いているままにしてしまったりするなど、自分で調べたり、漢字の意味を考えながら適切に使用したりすることができているとは言えない姿も見られた。

そこで、今年度は手立てを見直し、自ら漢字を調べたり、漢字の意味を考えながら適切に使用したりする段階に指導の重点をおき、テーマに迫ろうと考える。自主学習や朝学の活用など、年間を通して日常的に進んで漢字を使ったり学習したりする機会を設けながら漢字を習得させていく。

また、漢字学習の基盤づくりや、興味・関心を高める上で効果があった、なごやっ子漢字検定、漢字に親しむイベントは、学年に合った工夫を加えて継続していく。

III 研究の内容

1 手立て

(1) 年間を通して児童が漢字学習に取り組むことができる授業実践

① 分からない漢字を自分で調べたり、漢字の意味を考えさせたりする授業の工夫

【工夫のポイント】・調べたいと思わせる手立てや、調べる方法を身に付けさせる手立て

・調べる方法を工夫させる手立て など

② ペアでの対話やグループ活動の設定（協働的な学び）

【例】・互いに書いた文章を読み合い、漢字で書けるものを伝え合う。

・グループで間違った漢字や誤った使い方をしている漢字を見付ける。 など

(2) 個にあった漢字検定

- 月2回、自分の課題とする級のなごやっ子漢字検定（支援級は実態に応じた検定）を行う日を全校で設定する。
- 漢字検定の受験は児童に選ばせる。
- 昨年度は練習プリントで学習を進めさせたが、今年度は、実際の問題を使って練習してもよいこととする。

(3) 漢字に親しむイベント 委員会、各部会等で企画する。

【授業や特設のイベントで考えられる実践例】

- ・ 年末に全校で「浦里小今年の漢字」を募集する
- ・ 各委員会等で漢字クイズやウォークラリー等を企画する
- ・ 昼放課に寺子屋を開き、上位学年が下学年の漢字学習をサポートする

2 評価方法

- 学級内で抽出児童を設定し、抽出児童を中心とした児童の変容（学習ノートの記述等）
- 質問紙による児童・保護者・教員の意識調査

3 その他

保護者・地域への啓発として、学校 Web ページへの掲載や学年だよりに取組の様子を掲載する。（家庭との連携）

IV 研究の進め方

推進委員が中心となって研究の方向や進め方を提案し、各部の連携を図りながら実践を進める。校内全体で、児童・保護者・職員が理解して行っているという一体感をもつ。

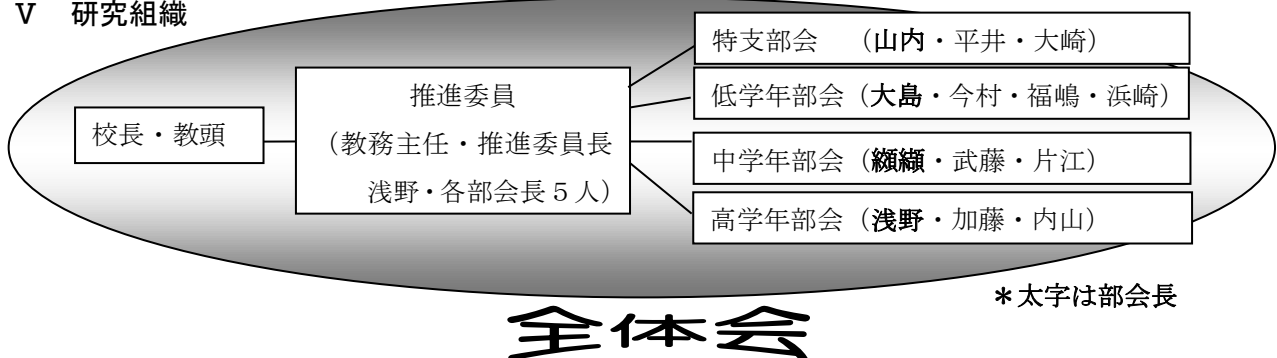
全体会・・・（メンバー全員）

- 全体協議の場で、研究の進め方について共通理解を図り学び合う。
- 各部会の活動内容の情報交換、協議や検討を行う。

学年部会・・・（低・中・高・特支部会）

- 授業を行う教員は一人1回公開授業を行う。各部会で1学期（5月～7月）・2学期（9月～11月）に1回ずつ公開授業を行う。
- 部会で事前検討を行い、授業参観者は事後検討をする。（学年部会と有志）
- 4月・10月・2月のどこかで授業参観で努力点の取り組みが分かる工夫（授業実践、教室掲示など）を行う。4月・2月の学級懇談会で保護者に啓発を図る。
- 各部会は、授業日の1週間前までに部会を開き、指導案の検討をする。
- 授業者は、学習指導案（略案）を授業3日前までには教職員に配付する。

V 研究組織



* 太字は部部长

全体会